

「横浜市で災害が起きたら あなたはどうしますか？」解説書

この解説書は、日本語を学ぶ外国人の方に防災について説明する際の参考として、リーフレットで伝えたい内容やその背景をまとめたものです。より詳しく知りたい場合は、各QRコードから関連情報をご参照ください。

(1) はじめに

学習を行う場合は、学習者が居住する区の防災マップやハザードマップを用意しておくこと、より理解が深まります。区役所等で、無料で入手することができます。また、学習会場周辺の防災情報についても事前に確認しておくことで、より具体的な説明が可能になります。

(2) リーフレットのねらいと構成

リーフレットは、防災を「生活に身近なもの」として捉え、日本語学習者が「自分事」として理解し、日常の中でできる備えにつなげることを目的としています。「なぜ防災が必要なのか」を知ることから始まり、「災害時にどう行動するか」を考え、周囲とつながる、必要な情報を知るという流れで、防災を段階的に学習できる構成になっています。

すべてのテーマを順番に説明する必要はありません。学習者の日本語能力や状況、学習時間、出身地での経験に応じて、テーマを絞ったり、複数のテーマを組み合わせることもできます。

また、防災知識を学ぶと同時に、「考える」「話す」「書く」を通して、防災への理解を深めることもねらいとしています。学習者との対話こそが重要であり、このリーフレットはそのための補助としてご活用ください。

(3) リーフレットの使い方

- 単語は、日本語の情報からも理解できるようにするため、発音もあわせて練習してください。
- □には「✓」を入れることで、新しい語彙の習得として認識できます。
- リーフレット内の太枠の欄は、学習者が書き込む箇所です。




(4) リーフレットの活用方法

- セクションごとに切り分けて取り組むことも可能です。社会情勢や季節に合わせて、テーマを選んで取り組む方法もあります。
- 教室での一時的な教材にとどまらず、自宅でも見やすい場所に掲示するなど、保存して繰り返し確認できる防災資料としても活用できるよう作成しています。
- リーフレットは、やさしい日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語で作成しています。多言語版は、内容理解の補助資料としてご活用ください。

(5) 各セクションのテーマと内容

| セクション番号とテーマ | 内容 |
|---------------|-----------------------------|
| [表紙] 災害例 | 自然災害の例を写真で紹介 |
| [1]防災関連用語 | 覚えておきたい防災用語とマーク |
| [2]困ること／できること | 災害で起こること、困ること、事前にできる対策 |
| [3]準備するもの | 備蓄しておくものと非常持ち出し品 |
| [4]地震 | 地震の時に家の中で起きること、気をつけること、避難場所 |
| [5]台風・大雨・豪雨 | 風水害に関する警報、ハザードマップ、対策 |
| [6]助け合い | 避難所、防災訓練、近所の知り合い、自治会・町内会 |
| [7]連絡場所 | 家族の集合場所、学校・会社のルール |
| [8][9][10]情報 | 防災情報のQRコード、災害時の相談先、フリーWi-Fi |
| [11]子ども | 子どもが学校や幼稚園・保育園にいる場合 |
| [12]ペット | ペットがいる場合 |

(6) リーフレットにあるマークの意味

チェック  調べる  書く  話す

(7) 表紙写真出典

| 写真番号 | 内容 | 出典 |
|------|------|---------------------------------|
| 1 | 地震 | 阪神・淡路大震災「1.17の記録」 |
| 2 | 火事 | 阪神・淡路大震災「1.17の記録」 |
| 3 | 道路損壊 | 東北地方整備局震災伝承館 |
| 4 | 津波 | 東北地方整備局震災伝承館 |
| 5 | がけ崩れ | 阪神・淡路大震災「1.17の記録」 |
| 6 | 台風 | 写真 AC |
| 7 | 洪水 | 熊本災害デジタルアーカイブ／提供者：人吉下球磨消防組合消防本部 |

表紙

(1) ねらい

自分も災害に巻き込まれる可能性をイメージしてもらおう。

(2) 概要

さまざまな「災害の写真」を通して、日本は災害が非常に多い国であることを伝えるため、特に横浜市で想定されている災害の写真に掲載。



(3) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|---|---|
| 地震 ②建物が壊れる ③大きな火災 ④道路や水道管が壊れる ⑤津波 | <ul style="list-style-type: none"> ●地震 日本全国どこでも突然大きな地震に襲われる可能性がある。 ●津波 <ul style="list-style-type: none"> ●東南アジアや南米の地震でも、日本に津波が到達する恐れがある。 ●学習者の居住地、教室の所在地が内陸であっても、外出時に津波浸水域にいる場合もあるので、津波避難について触れておく。 ●沿岸部には、津波から人命を守るために整備された「津波避難施設」がある。津波避難施設は、高台や津波の影響を受けにくい建物などが指定されている。地震の後は、できるだけ早く安全な津波避難施設へ避難することが大切。 |
| 台風 ⑥がけ崩れ ⑦強い雨風 ⑧洪水/大雨で川があふれる | <ul style="list-style-type: none"> ●がけ崩れ 横浜市は、がけ崩れが起きやすい場所(土砂災害警戒区域/急傾斜地崩壊危険区域)が多い。学習者の生活圏内に危険な場所がないか、意識してもらおう。 ●水害 急流が多いので、少しの大雨でも洪水が起こる可能性がある。都市部では内水氾濫*も起きやすい。 <p>*内水氾濫：大雨の際に下水などの排水処理が追いつかず、雨水があふれて道路や建物が浸水すること。 川があふれていない場合でも発生する。</p> |

内水氾濫

・短時間強雨等により雨水の排水が追いつかず、浸水が発生する

・合流先の河川の水位上昇により、水路などから排水できなくなった雨水があふれる

出典：国土交通省 防災用語ウェブサイト(水害・土砂災害)
<https://www.river.go.jp/kawabou/glossary/pc/term?key=naisuihanran>

【参考情報】

- 水道・電気・ガスといったライフライン、電話や鉄道も止まる。
- 救援や支援はすぐには来ない。行政職員も被災する。3日間はとにかく自力で生き延びる！そのための事前の備えが重要。

(4) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|--------|--|--|
| ①タイトル | ●まず写真から「災害」のイメージをつかんでもらう。 | ■「災害」は、何ですか？ |
| ②地震 | ●関連セクション[4] | ■急に地面が揺れます。とても強く揺れるときがあります。 ■古い建物や弱い建物が壊れることがあります。 |
| ③大きな火災 | ●関連セクション[4] | ■大きな地震の後は、火災が起きます。 ■でも、すぐに消すことができません。 だから、たくさんの家が燃えます。 |
| ④道路 | ●消防車や救急車等の写真やイラストを見せると理解しやすい。 ●関連セクション[2]・[3] | ■道路が壊れることがあります。水道管も壊れます。水が出なくなります。 ■人や車が通ることができません。消防車や救急車も通れません。 |
| ⑤津波 | --- | ■横浜市でも津波がくるところがあります。 |
| ⑥がけ崩れ | ●関連セクション[5] | ■たくさん雨が降った後や大きな地震の後に、がけが崩れる(壊れる)ことがあります。 ■あなたの家の近くに、がけはありますか？ |
| ⑦台風 | ●関連セクション[5] | ■日本では夏になると、台風が来ます。 |
| ⑧洪水 | ●関連セクション[5] | ■台風や大雨で、川の水が多くなります。川の水が町の中まで入ってきます。 |
| ※まとめ | --- | ■これが、災害です。 ■地震は急に起きます。だから、いつも注意します。今も注意します。 ■でも台風や大雨は、天気予報でわかります。だから、天気が悪くなる前に安全なところに逃げます。 |

セクション[1]


[1] この日本語を知っていますか？ [おぼえる]

災害 (Sa i ga i) 1

じしん たいふう おおあめ つなみ
地震・台風・大雨・津波などのことです。
日本では、いろいろな災害が起きます。

地域防災拠点 (Chi i ki bo u sa i kyo te n) 3

ひなんじょ
避難所 (Hi na n jo) とも いいます。
災害で、家に 住むことができなくなったときに 行きます。
水や食べものを もらうことができます。




ひなんじょ まあく
避難所のマーク

防災 (Bo u sa i) 2

さいがい お せいかつ
災害が起きると、いつもの生活が
できなくなります。そのときに困ることを
減らすために 準備しておきます。

広域避難場所 (Ko u i ki hi na n ba sho) 4

おお かさい に
大きな火災のとき、逃げるところです。
ひろ こうえん
広い 公園などです。

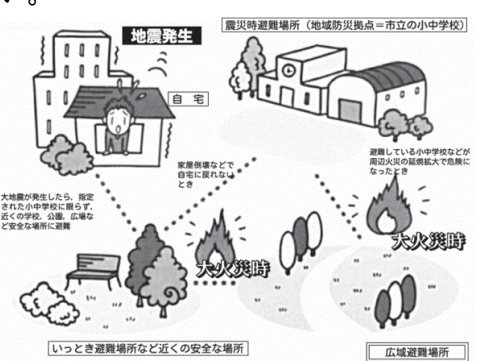



こういきひなんばしょ まあく
広域避難場所のマーク

(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|--|
| ねらい | 災害時によく使われる言葉の意味をあらかじめ知ること、避難情報や周囲の呼びかけを正しく理解し、落ち着いて行動できるようになる。 |
| 概要 | 防災知識の糸口として、最低限知っておいてほしい用語を掲載している。 |

(2) 解説







| 掲載内容 | 解説 |
|---------|--|
| ①災害 | その地域性に合わせて、発生可能性の高い災害例を伝える。 |
| ②防災 | 自分や家族の安全を守るために、何をするかを考える。 |
| ③地域防災拠点 | <ul style="list-style-type: none"> 横浜市では地域防災拠点と呼んでいるが、国や他市では指定避難所と呼ばれることが多い。避難所として家で過ごせなくなった人を受け入れる。 避難所としての機能以外に救援物資や情報収集・提供など、地域と区役所を結ぶ防災拠点としての機能がある。 |
| ④広域避難場所 | <p>大地震により発生した火災が多発し延焼が拡大した場合に、その輻射熱(ふくしゃねつ)や煙から市民の生命・身体を守るために避難する場所。屋根のある場所ではなく、備蓄品もない。</p>  <p>出典：横浜市 HP「広域避難場所」 https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/map/koiki/koiki.html</p>  |

(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|---------|--|---|
| タイトル | <ul style="list-style-type: none"> ● タイトル部分を読み上げ、セクションのテーマ(目的)を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ この日本語を知っていますか？ 覚えます。 |
| ① 災害 | <ul style="list-style-type: none"> ● 表紙の写真を見せながら話す。 ● 学習した単語には☑を入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 覚えたら□にチェックを入れます。 |
| ② 防災 | <ul style="list-style-type: none"> ● 表紙のサブタイトルや防災マップ等で「防災」の文字を示し、目にする機会の多い言葉であることを知ってもらう。 | --- |
| ③地域防災拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ● 避難所のマークを覚えてもらう。 ● 関連セクション[6] | <ul style="list-style-type: none"> ■ (マークを指し)家の形ですね。 ■ 避難所は、建物の中です。 |
| ③避難所 | | <ul style="list-style-type: none"> ■ ○○さん[学習者]は、どこの避難所に行きますか？わかりますか？ ■ あとで一緒に地図を見ます。○○さん[学習者]の避難所がわかります。 ■ 地域の小学校か中学校です。 |
| ④広域避難場所 | <ul style="list-style-type: none"> ● 広域避難所のマークを覚えてもらう。 ● 地域防災拠点のマークとの違いを意識してもらう。 ● 関連セクション[4] | <ul style="list-style-type: none"> ■ (マークを指し)こちらは家の形がありません。これは外です。 |

セクション[2]

[2] 災害が起きたら、困ることを考えましょう

| | ＜起きること＞ | ＜困ること＞ | ＜あなたが できること＞ |
|--|-------------------------------|---|---------------------------------|
|  | 1 停電 (Teiden) 電気が止まります。 | 2 明かりがつかえません。充電をすることができません。冷蔵庫・エアコン・電話などを 使うことができません。 | ライト、モバイルバッテリー、乾電池などを 家に 置きます。 |
|  | 3 断水 (Dansui) 水道から 水が 出ません。 | トイレ、シャワー、台所の水を 使うことができません。 | 水を 買って置きます。避難所で 水を もらうことができます。 |
|  | 4 大きな地震が起きたら トイレの水を使いません。 | 排水管が 壊れているかもしれません。部屋の中に、汚い水が 出ます。 | 家で 非常用トイレを 使います。避難所に トイレが あります。 |
|  | 5 ごみを 集める車が 来ません。 | ごみを ごみ置き場に 出しません。ごみを 集めにくるまで、家に 置きます。 | 地域のお知らせがあったら 多く 出します。 |
|  | 6 店に しなもの ありません。何日も 店が 閉まります。 | 買い物を することが できません。 | いつも 使うものを、多く 家に 置きます。 |
|  | 電車や バスが 動きません。 | すぐに 家に 帰ることが できません。長い時間 歩いて 帰る人も います。 | 正しい情報 を 見ます。歩いて帰る人を 助ける店のマーク |



(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|--|
| ねらい | 災害の種類に関わらず起こりうる状況を知ること、困ることとできることを、日常生活の延長として捉えてもらう。 |
| 概要 | 災害時に学習者が直面する生活不全について、特に心がまえをしておいてほしいことを＜起きること→困ること→あなたができること＞と、因果関係を順序だてて記載している。 |

(2) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|-------|---|
| ① 停電 | <ul style="list-style-type: none"> ● 冷蔵庫や冷暖房、照明など日常生活に必要な電化製品が使用できなくなる。 ● スマートフォンの充電もできず、情報が得にくくなる。 ● 暑さ・寒さで体調をくずすこともある。 ● 明かりと熱源を備えておく。 |
| ② 断水 | <ul style="list-style-type: none"> ● 水道水が止まり、トイレやシャワーが使えない。料理や洗濯もできない。 ● 飲み水や生活用水を備えておくことが大切。 ● 飲み水は1人1日3L×3日分、できれば7日分。都市部では10日分以上あると、より安心。 ● 給水所の場所を事前に確認しておく。 |
| ③ トイレ | <ul style="list-style-type: none"> ● 大きな地震の後は、排水管が壊れていることがある。 ● そのままトイレを流すと、下の階に水が漏れてしまうことがある。 ● 集合住宅では漏水事故による損害賠償請求に発展する場合もあるので、特に注意が必要。 |

| | |
|--------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●安全が確認できるまでは、非常用トイレを使う。そのためにも、非常用トイレの備蓄が必要。 |
| ④ごみの保管 | <ul style="list-style-type: none"> ●災害のあと、ごみの収集が止まることがある。 ●ごみを外に出せないため、家の中で保管する必要がある。 ●臭いや害虫を防ぐため、袋をしっかりと閉じ、できるだけ分けて保管する。 ●ごみを分別していない場合、収集が再開しても回収されないことがある。 ●町から収集の知らせがあるまで、決められた方法で保管する。 |
| ⑤買い物 | <ul style="list-style-type: none"> ●発災後は店の商品が売り切れることがある。 ●食べ物や水、電池などがすぐになくなり、何日も買えないこともある。 ●必要な物は普段から少し多めに用意しておく。 ●ガスが止まった場合に備えて、加熱調理しなくても食べられるものや、カセットコンロ・カセットボンベ等も準備しておくで安心。 ●慌てて買い占めをしない。 |
| ⑥交通 | <ul style="list-style-type: none"> ●災害後は、電車やバスが長い時間止まることがある。 ●すぐに家へ帰れず、駅や職場で足止めされるなど帰宅困難者になることもある。 ●無理に移動せず、安全な場所で待つことが大切。 ●歩いて帰る場合に備え、靴や地図を準備しておく。 ●帰宅困難者一時滞在施設が開設される場合もある。災害時の正確な情報収集が重要になる。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●災害時帰宅支援ステーションは、大きな地震などで電車が止まり、歩いて帰る人を支援する場所。 ●コンビニやガソリンスタンドなどに設置されていることが多く、水やトイレの提供、道路情報の案内などを受けられる。 ●左の絵のような看板やステッカーが目印。 |



(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|--------|--|--|
| ①停電 | <ul style="list-style-type: none"> ●関連セクションは[3]・[6] | <ul style="list-style-type: none"> ■停電で困ることは、何ですか？ |
| ②断水 | <ul style="list-style-type: none"> ●関連セクション[6] | <ul style="list-style-type: none"> ■避難所で、すぐに水をもらうことはできません。 ■だから私[支援者]は、ペットボトルの水を買って、家に置いています。 |
| ③トイレ | <ul style="list-style-type: none"> ●可能であれば、ここで非常用トイレの実物を見せると理解が進む。 ●使い方はセクション[3]を参照。 ●関連セクションは[6] | <ul style="list-style-type: none"> ■〇〇さん[学習者]は、非常用トイレを知っていますか？ ■トイレに1日に何回行きますか？非常用トイレはたくさんあると安心です。 |
| ④ごみの保管 | <ul style="list-style-type: none"> ●広報や掲示・チラシ、近所づきあいなどでの情報共有が重要になってくる。地域のつながりへの関心を持ってもらう。 ●セクション[6]の自治会・町内会に触れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ■災害のときは、いつもより多くごみが出ます。だから少しずつ集めます。 ■地域の決まりを守ります。 |

| | | |
|------|---|--|
| ⑤買い物 | <ul style="list-style-type: none"> ●セクション[3]で備蓄について対話する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■あなたがいつも使うものは、どんなものがありますか？ ■今、家にありますか？買い物ができなくても大丈夫ですか？ |
| ⑥交通 | <ul style="list-style-type: none"> ●自分の日常生活が急に停止することを想像してもらう。 ●セクション[8]で正しい情報の入手先一例を紹介している。 | <ul style="list-style-type: none"> ■〇〇さん[学習者]は、教室に来るとき、電車に乗りますか？ ■ここから家まで歩くことができますか？ ■歩いて帰る人を助ける店があります。(災害時帰宅支援ステーションのマーク)店の前にこのマークがあります。見たことがありますか？ ■〇〇[教室の近くの店など]にも、貼ってあります。 |

セクション[3]

[3] 災害が起きたときのために自分で準備するもの 〔考える・話す・書く〕

1

備蓄 (Bi chi ku)

あなたが使うものを買っておきます。

水 食べもの 非常用トイレ


あなたは何を使いますか？

4

2

非常用トイレの使いかた

- 袋の中に、トイレをします。
- 袋の中に粉を入れます。
- 袋を結びます。
- トイレのごみを集める日まで家に置きます。



3

持ち出し品 (Mo chi da shi ni)

避難所で使うものを自分で持っていきます。

絶対に持ちます

パスポート 在留カード 現金

あなたは何を持って行きますか？

5

(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|---|
| ねらい | 備蓄品や持ち出し品は、人それぞれ必要なものが異なるため、「自分にとって何が必要か」「自分の生活では何を準備するべきか」を確認しながら、備えの必要性を感じてもらう。 |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●最低限必要な「備蓄品例：水・食べ物・非常用トイレ」「持ち出し品例：パスポート・在留カード・現金」を紹介する。 ●さらに学習者自身にとって、他にどんな物品が必要かを対話の中で考えてもらう。 |

(2) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|-------------|---|
| ①備蓄 | <p>普段から準備しておいてほしいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まずは生存に欠かせない水・食料・非常用トイレ(トイレパック)。 ●これに加えて、必要な物は一人ひとり異なる。 ●災害後、しばらく買い物ができなくなることを想定し、自分には何が必要かを考えておく。 ●外国人にとっては、情報収集のためにスマートフォンが必須。 ●充電器やモバイルバッテリーなど、電源を確保する方法についても考えておくことが大切。 |
| ②非常用トイレの使い方 | <ul style="list-style-type: none"> ●非常用トイレの現物を準備しておくとう理解しやすい。 ●トイレごみは、地域でごみ回収の知らせがくるまで自宅保管する。 |
| ③持ち出し品 | <p>避難時に持っていくものをまとめておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自宅を離れて避難しなければならなくなった場合に備え、最低限必要なものを、いつでも持ち出せるようにまとめておく。 ●パスポートや在留カード、マイナンバーカードなど身分証明書、現金、通帳、常備薬などが考えられるが、必要なものは人それぞれ異なる。 |

(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|---------|--|---|
| ①備蓄 | ●関連セクション[2] | ■大きな災害が起きると、買いものができなくなります。 ■だから、いつも使うものを多く買って、家に置いておきます。 ■家族の分も用意しておきます。 |
| ①水 | ●避難所の話をするときは、セクション[1]の避難所マークを提示するとよい。 | ■今日、水道から水が出なくなったら、どうしますか？大丈夫ですか？ |
| ①食べもの | ●外国人学習者ならではの生活文化(好き嫌いや、日本でも食べている母国の伝統料理や食材など)を話題とした対話を楽しむ。 | ■避難所で、食べものをもらうことができません。でも数が少ないです。 ■〇〇さん[学習者]は、何の食べものが好きですか？何をよく食べますか？ ■自分の好きな食べ物を、家に置いておくとういことです。 |
| ②非常用トイレ | ●非常用トイレの使い方を説明する。 ●非常用トイレの実物を見せると分かりやすい。 | ■避難所にトイレがあります。でも、とても長い時間、待ちます。 ■だから、家に非常用トイレがあった方がいいです。 ■一人一日5回くらい、トイレを使います。家族の分もいります。 |
| ③持ち出し品 | --- | ■災害の時は、カードやスマホで買い物をすることができません。だから、お金がいります。 |

(4) ④書き込みワーク「あなたは何を使いますか？」

| | |
|---------|---|
| 目的 | 水・食べもの・非常用トイレ以外で、学習者が使いたいものを考えて書く。 |
| ワークのヒント | ●セクション[2]から必要品を考える。 ●地域の防災マップやインターネットの備蓄品一覧イラストなどを見せる。 |
| 回答例 | ●外国人学習者による実際の回答事例： バッテリー、ブランケット、カイロ、タオル、薬、友人の連絡先、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、生理用品、おむつ、懐中電灯など |
| 発展 | ●非常用トイレやアルミブランケットなど、実物を見せると印象に残りやすい。 ●教室の防災備蓄品として用意しておくのも一案。 |

(5) ⑤書き込みワーク「あなたは何を持って行きますか？」

| | |
|---------|---|
| 目的 | パスポート・在留カード・現金以外で、自分が持って行くものを考えて書く。 |
| ワークのヒント | ●学習者にとって、災害時に手元に無いと困るもの考える。 ●地域の防災マップやインターネットの持ち出し品一覧イラストなどを見せる。 |
| 回答例 | バッテリー、薬、メガネ、本など |
| 発展 | 支援者の防災ポーチや、いつも必ず持ち歩いている物などを紹介する。 |

セクション[4]

1 **地震** 地震が起きてても家が安全なときは、避難所に行かなくてもいいです。〔話す・書く〕

2

3

4

5

6

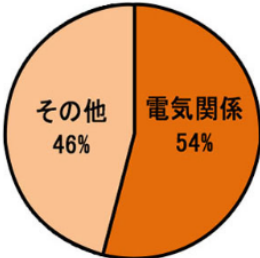

北淡震災記念公園 野島断層保存館にて撮影

(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|--|
| ねらい | 地震発生直後の行動を具体的にイメージし、「何に注意し、どう行動すればよいか」を自分の生活に結びつけて考えてもらう。 |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●地震は突然発生するため、事前の準備がとても重要。 ●ここでは地震が起きたときの被害を減らすための備えや対応について記載。 |

(2) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|-----------------------------------|---|
| ①地震が起きてても家が安全なときは、避難所に行かなくてもいいです。 | <ul style="list-style-type: none"> ●地震後、自宅が安全で生活を続けられる場合は、必ずしも避難所へ行く必要はない。 ●建物に大きな被害や火災・津波の危険がなければ、自宅にとどまる「在宅避難」という選択肢がある。 ●避難所は自宅に住み続けられない人のための場所。まずは自宅の安全を確認し、状況に応じて行動を選ぶ。 |
| ②写真 | <ul style="list-style-type: none"> ●阪神・淡路大震災で実際に被災した一般住宅の写真。(北淡震災記念公園 野島断層保存館にて撮影) ●大型の食器棚が倒れ、吊戸棚が全て開いて、中にあった食器が割れて散乱している、テーブルや椅子が移動しているなど、いかに強い揺れだったかを物語っている。 ●避難経路を失ったり、怪我や場合によっては命に関わる。 |

| | |
|--------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 「倒れる・落ちる・動く」ものへの対策が必須。 ● 夜間に地震が起きると、この写真のような状況が把握しにくく危険なため、普段から枕元に明かりと履物を用意しておくが良い。 |
| ③家具転倒防止対策 | <ul style="list-style-type: none"> ● 家具の転倒防止は、自分や家族の命を守るために必要な備え。 ● 高いところにある物が落ちる恐れがあるので、低いところに置く。 |
| ④火災対策 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地震後に発生する火災の中で多いのが通電火災。地震によって電化製品が落下し家具の下敷きになったり、配線が切れたりするおそれがある。停電後に電気が復旧した際、こうした電化製品に電気が流れることで出火する。 ● これを防ぐためには、あらかじめブレーカーを落としておくことが有効。 <div style="text-align: center;">  <p>東日本大震災における火災発生原因 <small>※日本火災学会誌「2011年東日本大震災 火災等調査報告書」より作成</small></p> <p>出典：内閣府「防災情報のページ」 https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/</p>  </div> |
| ⑤エレベーターの使用禁止 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地震時は安全装置の作動によりエレベーターが停止し、閉じ込められるおそれがある。 ● 救助に時間がかかる場合もあるため、避難する際はエレベーターを使わず、必ず階段を利用することが基本。 ● エレベーターによっては防災ボックスが設置されており、中には飲料水、懐中電灯、非常用トイレなどが保管されている。 |

(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|-----------|---|---|
| ②写真 | <ul style="list-style-type: none"> ● 写真を指差しながら、地震後に起きた状況を解説する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ これは、本当の地震の後の写真です。 ■ 食器棚が倒れています。お皿が割れています(…など) |
| ③家具転倒防止対策 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域のホームセンターなどを紹介すると参考になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 家具が倒れないようにします。家具を壁にとめます。 ■ (転倒防止器具画像を指し)家具を壁にとめる道具は、店で買うことができます。 ■ あなたの家には、どんな家具がありますか？ |

| | | |
|--------------|--|---|
| ④火災対策 | <ul style="list-style-type: none"> ●電化製品の例（電気ストーブ、ドライヤー、トースターなど）の例をまじえて、通電火災の危険性を伝える。 ●関連セクション[2] | <ul style="list-style-type: none"> ■地震が起きると電気が止まります。停電です。 ■〇〇さんは[学習者は]、家でどんな電化製品（電気で動くもの）を使いますか？ ■地震が起きると、電化製品がカーペットの上に落ちるかもしれません。コードが切れることもあります。 ■停電が直ると、急に電化製品に電気がきます。コードが切れたり濡れていたりすると、火が出るかもしれません。 ■地震の後は、(表紙の写真を見せ)このような火災が多く起きます。 ■だから、地震の後はブレーカーを切ります。家の電気を全部止めます。 |
| | ●ブレーカーの写真を見る。 | ■あなたの家のブレーカーはどこにありますか？ |
| ⑤エレベーターの使用禁止 | --- | <ul style="list-style-type: none"> ■地震の後は、エレベーターに乗りません。 ■エレベーターから出ることができなくなることがあります。 ■長い時間、助けに来ません。 ■地震の後は、階段を使ってください。 |
| ⑥今地震が起きたら | <ul style="list-style-type: none"> ●教室周辺の”倒れるもの”、”落ちるもの”、”移動するもの(キャスターのついたもの)などを探す。 ●机の下に入る、荷物や両手で頭を守るなど、実践してみる。 | <ul style="list-style-type: none"> ■今、地震が起きたらどうしますか？ ■身体を低くして、頭を守ります。 ■(学習会場が安全な建物内にある場合)この建物は倒れません。だから、急いで外に出なくてもいいです。 ■先生と一緒にいてください。(…など) |

(4) ⑥書き込みワーク「今いるところの避難場所を書きます」

| | |
|-----|---|
| 目的 | 教室の避難ルールの確認をする。 |
| ヒント | ●構内図などがあると、わかりやすい。 |
| 会話例 | <ul style="list-style-type: none"> ■この教室の避難場所は〇〇です。地震が止まったら、みんなでここに集まります。 ■今から、一緒に行きます。 ■〇〇[学習会場の避難場所]で、名前を呼びますから、一緒にいてください。 ■帰るときは、帰りますと教えてください。急に帰らないでください。 |
| 発展 | <ul style="list-style-type: none"> ●教室の避難訓練を同時実施して、一緒に避難場所まで行ってみる。 ●点呼や解散まで、流れを確認する。 |

セクション[5]

[5] 台風・大雨・豪雨 天気予報をなんども見ます。正しい情報を確認して、安全に逃げます。

1 **警報** (Kei ho u)
 天気予報を見ます。
 天気がとても悪くなるときに、「危ないので、気をつけてください」というお知らせです。

2 **警戒レベル** (Ke i kai re be ru)
 台風や大雨で町が危ないときに、「そこから逃げてください」というお知らせです。自分がいるところに「避難情報」が出たら、「警戒レベル3」か「警戒レベル4」のときに逃げます。

| 避難情報 | |
|------|------------|
| 5 | とても危ない |
| 4 | 今すぐ逃げます |
| 3 | おちついて逃げます |
| 2 | 逃げる準備をします |
| 1 | 天気予報を確認します |

3 台風が来る前に

- 家の外にある自分のものを家の中に入れます。
- 買い物をしておきます。
- 停電のための準備をします。
- 学校や会社のきまりを確認します。

4 あなたが住んでいる地域のハザードマップを見ます。

① 家の近くで洪水が起きますか？ はい いいえ
 避難情報を確認します。風や雨が強くなる前に逃げます。

② 家の近くで土砂災害(崖崩れ)が起きますか？ はい いいえ
 避難情報を確認します。逃げるときは、安全な道を通ります。

③ あなたの家は、安全なところにありますか？

- ◆ 防災マップや、ハザードマップは、区役所でもらうことができます。
- ◆ 横浜市防災情報 Eメール: 横浜市から災害のお知らせをメールで送ることができます。登録しましょう。



日本語

(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|--|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ●風水害は事前に情報を得て、避難行動をとることができる災害であることを理解する。 ●ハザードマップの見方を覚える。 ●「いつ・どこへ・どう逃げるか」を自分の生活に当てはめて考えてもらう。 |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●台風や大雨は天気予報で事前に情報を得て、準備や行動を考えられる災害のため、事前の情報収集がとても重要。 ●学習会場や学習者の住所のハザードマップ(防災マップ等)を用意し、それを見ながら説明や会話を進める。 ●実際の場所を確認しながら話すことで、風水害への備えを自分事として理解しやすくなる。 |

(2) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|--------|---|
| ①警報 | <ul style="list-style-type: none"> ●天気予報などで「警報」が出ている場合は、注意が必要な状況を示している。 ●この「警報」という言葉にしっかり反応し、早めに行動する。 |
| ②警戒レベル | <ul style="list-style-type: none"> ●警戒レベルは1から5まであり、避難行動をとるタイミングを判断するための指標。細かな区分よりも「いつ行動を起こすか」が重要。 |

- 警戒レベル 3 危険が高まり始めている段階で、周囲の状況を確認しながら、落ち着いて避難行動を開始するタイミング
- 警戒レベル 4 命に危険が及ぶおそれがある状態で、ためらわず、すぐに避難する必要がある
- 警戒レベル 5 すでに災害が発生している、または切迫している「逃げ遅れ」の状態を示す。レベル5になってから動くのは遅いため、どの段階で避難するか事前に決めておくことが重要

| 警戒レベル | 状況 | 住民がとるべき行動 | 行動を促す情報 |
|------------------|--------------|------------------|----------------------|
| 5 | 災害発生 又は切迫 | 命の危険 直ちに安全確保！ | 緊急安全確保※1 |
| <警戒レベル4までに必ず避難！> | | | |
| 4 | 災害のおそれ高い | 危険な場所から全員避難 | 避難指示(注) |
| 3 | 災害のおそれあり | 危険な場所から高齢者等は避難※2 | 高齢者等避難 |
| 2 | 気象状況悪化 | 自らの避難行動を確認 | 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁) |
| 1 | 今後気象状況悪化のおそれ | 災害への心構えを高める | 早期注意情報 (気象庁) |

※1 市町村が災害の状況を確認できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである
 (注) 避難指示は、令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令する



出典：内閣府「防災情報のページ」

https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/

③台風が来る前に

- 外にある、強風で飛ばされそうなものは家の中にいれる。(鉢植えなど)
- 備蓄を確認し、停電に備える。
- 通学や出退勤など学校や会社のルールを確認する。

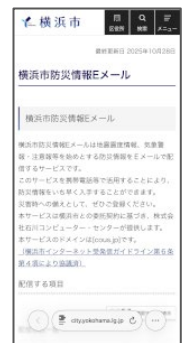
④防災マップ
ハザードマップ
避難情報

- 台風や大雨が強くなる前に避難することが重要。
- 避難先は必ずしも避難所に限らず、状況によっては建物の高い場所など、より安全な場所を選ぶことが大切。
- 防災マップやハザードマップは区役所で入手できる。

⑤横浜市防災情報
Eメール

- 横浜市防災情報Eメールは、災害に関する情報や避難に関するお知らせを、横浜市から直接メールで受け取れる仕組み。
- 日本語が十分に分からない場合でも、事前に登録しておくことで、災害の発生や注意喚起を早く知ることができる。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/iza/jyoho/email.html>



(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|----------|---|--|
| ①警報 | <ul style="list-style-type: none"> ●単語と一緒に発音して、ニュースなどで理解できるように覚えてもらいたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ■一緒に言います、「けいほう」 |
| ②警戒レベル | <ul style="list-style-type: none"> ●警戒レベル「いち・に・さん・よん・ご」というように、数字を日本語で発音するところがポイント。 ●関連セクション[8] | <ul style="list-style-type: none"> ■テレビやインターネットで見ることができません。 ■警戒レベル3は赤です。この時は安全に逃げることができます。 ■警戒レベル4は紫です。すぐに逃げます。 ■警戒レベル2は黄色です。この時に、持ち出し品を確認します。 |
| ③台風が来る前に | <ul style="list-style-type: none"> ●自分の所有物が他の人や物にぶつかるなどして損害を与えたとき、賠償が生じる可能性があることを伝えておきたい。 ●関連セクション[3]・[7] | <ul style="list-style-type: none"> ■家の外に物を置いていますか？ ■あなたの物が風に飛ばされて人の物を壊したとき、直すお金はあなたが払います。だから、飛ばないようにします。 |

(4) ④書き込みワーク「あなたが住んでいる地域のハザードマップを見ます」

| | | |
|-------------|---|--|
| 目的 | 学習者の居住地の災害リスクを確認する。 | |
| 地図のヒント | <ul style="list-style-type: none"> ●洪水・土砂災害・津波など、地域が該当するハザードマップを見る。 ●地図で確認したいこと：学習者の自宅周辺および駅・学習会場などの洪水・土砂災害・津波ハザード、最寄りの水害避難施設 | |
| ワークのヒントと会話例 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活圏の災害リスクを地図で一緒に調べる。 ●地図上で自宅を把握する。 ●地図に書き込んでしまう学習者もいるので、情報流出に気をつける。 | <ul style="list-style-type: none"> ■〇〇さんの家は、どこにありますか？ ■あなたの家は、安全なところにありますか？ ■近くで洪水が起きますか？／近くでがけ崩れが起きますか？ ■洪水が起きるかもしれません。天気予報と避難情報を何度も見て、天気が悪くなる前に、逃げてください。 |
| 発展 | <ul style="list-style-type: none"> ●教室と関連している地域の災害リスクを調べる。 ●普段よく歩く道、避難所までの道などの災害リスクを確認する。 | |

セクション[6]

[6] 災害のときは、近くに住んでいる人が助けあいます (調べる・書く)

1 あなたの避難所の名前を書きます。

2

災害で家に住むことができなくなったときに行きます。
家に帰ることができるまで地域の人といっしょに住みます。

近くに住んでいる友だちや知っている人を書きます。

3

地域の人と友だちになりましょう。いつも挨拶をして、
地域の人と話することができるようになりましょう。

□ 防災訓練 (Bou saikunren)

地域の人が避難所に集まります。
災害が起きたときの練習をします。
避難所のきまりがわかります。参加しましょう。

4

□ 自治会・町内会 (Ji chi kai · Cho u na i kai)

近くに住んでいる人たちのコミュニティです。
災害のときは、みんなで助けあいます。
登録したい人は、区役所に聞きましょう。

5

(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|---|
| ねらい | 災害時は近所の人々との助け合いが不可欠であり、日頃から関係を築いておくことの重要性を知る。 |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●防災マップで地域防災拠点の場所を確認する。 ●避難所のマーク、広域避難場所のマークを、マップ上で確認する。 ●学習者の居住地域の地域防災拠点(避難所)の場所と名前を確認し、自分で書きこむ。 ●発災時の行動、地域の中での防災活動を自分事と捉えてもらう。 |

(2) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|---------|---|
| ①助け合い | <ul style="list-style-type: none"> ●災害時は、行政の支援(公助)はすぐに届かず、同じ町内・隣近所など物理的に近い人同士の助け合いが生死を分けるという認識から、「近助」という言葉も生まれている。 ●阪神淡路大震災の事例でも、倒壊した家屋などから生き延びることができた人の割合は非常に高かった。 ●普段から地域とつながりを持つておくことは非常時の助け合いの一助となる。 <div style="text-align: right;"> <p>阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等</p> <p>消防隊(1.7%) その他(0.9%) 通行人(2.6%) 友人・隣人(31.9%) 自力で脱出(34.9%) 家族(31.9%)</p> <p>出典：内閣府 平成 26 年版 防災白書より一部改変</p> </div> |
| ②避難所 | ●防災マップには、ふりがなが無いことが多い。避難施設や駅など主たる目印の読みがなを知っておく。 |
| ③近所づきあい | ●顔見知りや日頃から挨拶をする人など、近隣住民との関わりは重要。 |
| ④防災訓練 | ●避難所に助けを求める外国人の存在を地域が認識し、災害時の外国人対応を検討しておいてもらうという視点でも、外国人の防災訓練参加は有意義。 |

| | |
|----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●ただし、地域防災拠点では、外国人受け入れの準備態勢は、外国人単独での参加は困難が多いかもしれない。 ●日本語教室の支援者が引率あるいは付き添いとして、日本語教室で地域の防災訓練に参加している事例もある。 |
| ⑤自治会・町内会 | <ul style="list-style-type: none"> ●自治会・町内会は地域の共助の基盤だが、外国人にとっては加入のきっかけが少ない。そもそもその存在自体が、外国人に十分に伝わっていない。 ●横浜市各区役所地域振興課で加入相談を受け付けている。 |

(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|----------|---|---|
| ②避難所の名前 | <ul style="list-style-type: none"> ●防災マップで地域防災拠点(避難所)の場所を確認する。 ●学習者が避難所名を言うことができるように、自分で記入する。(日本語に限定しない) | <ul style="list-style-type: none"> ■あなたはどこの避難所に行きますか？一緒に地図を見ます。 ■「〇〇小学校」です。ここに書きます。 ■「〇〇小学校」に行ったことがありますか？ |
| ③知人・友人 | <ul style="list-style-type: none"> ●災害時に相談できる人が身近にいるかを思い出して、自分で記入する。 ●家族や同居人とは、緊急時の連絡方法についても、あらかじめ話し合っておけるとよい。 ●関連セクション[7] | <ul style="list-style-type: none"> ■家の近くに友だちがいますか？ ■隣の家の人を知っていますか？ ■家の近くに住んでいる人と、話をしたことがありますか？ |
| ④防災訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練に参加することの重要性を伝える。 ●防災訓練の情報は地域のお知らせから得ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ■防災訓練に行ったことがありますか？ ■地域の防災訓練に参加してみてください。 |
| ⑤自治会・町内会 | <ul style="list-style-type: none"> ●防災に関する情報は自治会・町内会から伝わるため、普段から顔見知りになっておくことが重要。 | <ul style="list-style-type: none"> ■地域のお祭りなどにも、行ってみましょう。 ■災害のときにも、一緒に助け合う人たちです。 ■自治会・町内会に入ると(地域のコミュニティのメンバーになると)、いろいろなお知らせをもらうことができます。 |

セクション[7]

17 災害のときは、どのように連絡しますか？ どこに集まりますか？

かぞく やくそく
家族の約束

2

がっこう かいしゃ やくそく
学校・会社の約束

3

(1) このセクションのねらいと概要

| | |
|-----|--|
| ねらい | 災害時に電話やメールで連絡が取れない場合に備えて、家族の集合場所を決めておく。学校や会社の決まりを確認する。 |
| 概要 | このセクションは、教室ではなく学習者自身で取り組む。宿題にすることも可。授業後も引き続き、防災を自分事として考えるきっかけにしよう。 |

(2) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|-----------|--|
| ①連絡と集合場所 | <ul style="list-style-type: none"> ●災害が発生すると電話がつながりにくくなる。 ●このような時、家族や知人と安否確認ができるサービスがある。 <ul style="list-style-type: none"> ◇電話での音声による伝言 <ul style="list-style-type: none"> ●NTT 東日本「災害用伝言ダイヤル(171)」 https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/ ◇インターネットでの文字による伝言 <ul style="list-style-type: none"> ●NTT 東日本「災害用伝言板(web171)」 英語・韓国語・中国語対応 https://www.ntt-east.co.jp/saigai/web171/ |
| ②家族の約束 | ●集合場所と時間帯を事前に決めておくと、発災後に連絡が取れなくなった場合も、合流しやすくなる。 |
| ③学校・会社の約束 | ●学校や職場等、災害時の登下校・出退勤の規定等の確認をしておくといよ。 |
| ※教室の場合 | <ul style="list-style-type: none"> ●日本語教室の災害時の約束も共有しておきたい。 ●台風の中、教室に来てしまったなどの事例もある。 |

(3) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|------------|----------------------|---|
| ②家族の約束 | ●家族・親族に限らず、同居者なども含む。 | <ul style="list-style-type: none"> ■一緒に住んでいる人はいますか？ ■電話ができなくても、会えますか？ |
| ③学校や会社の決まり | ●関連セクション[5] | ■学校・会社に行く日に、災害が起きたら、あなたはどうしますか？ |

セクション[8~10]

[8] 正しい情報を見ましょう。見やすいページをスマホに保存しましょう。

【横浜市の情報】

1 ぼうさいじょうほう ぼうたる 防災情報ポータル  Multi-language

2 さいがい べえじ 災害のページ  やさしい日本語

【日本のニュース】

3 NHK WORLD - JAPAN  Multi-language

4 Safety Tips  Multi-language

[9] 横浜市外国人災害時情報センター

さいがい お 災害が起きたときに、外国人に 情報を 伝えます。
さいがい こま そうだん 災害で 困ったときに、相談を することができます。

5



Multi-language

[10] 災害が起きたときのフリーWi-Fi



00000JAPAN
ふあいぶ ぜろ じゃぱん
ファイブゼロジャパン

さいがい お 災害が 起きたときだけ、使うことができます。
かね お金は いりません。だれでも 使うことができます。

6



日本語





ENGLISH

(1) セクション8~10のねらいと概要

| | |
|-----|---|
| ねらい | 「備える・調べる・共有する」の行動を促す。 |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●災害時の正しい情報をどこから入手するかを、事前に確認しておくことが重要。 ●このリーフレットには必要な情報へのリンクを掲載しているのので、実際にアクセスして目を通すよう促す。 ●災害時にはデマや不正確な情報が広がることもある。特に海外発信の情報は、その時の日本の実際の状況を正確に伝えていない場合もあるため注意が必要。 ●日本語表記の情報も、翻訳機能を活用することで内容を理解することができる。 ●信頼できる情報源にアクセスする習慣を身につけることが大切。 |

(2) 解説と対話のヒント


| 横浜市の情報・日本のニュース・スマホアプリ | 対話のヒント |
|---|---|
|  <p>①横浜市防災情報ポータル（多言語対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害時の情報をまとめて確認できる、横浜市の公式サイト。 ●地震・台風・大雨などの災害情報や、避難情報、避難所の開設状況などが掲載される。  <p>https://bousai.city.yokohama.lg.jp</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●「災害時はまず公式情報を確認することが大切である」ことを伝え、このポータルサイトが信頼できる情報源であることを説明する。 ●一緒にアクセスしてみる。 ●学習者が理解できる言語があるか確認する。 |

| | | |
|---|--|---|
|  | <p>②横浜市役所 災害のページ（やさしい日本語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害に備えるための基礎的な情報を「やさしい日本語」でまとめた、横浜市の公式ページ。 ●地震や風水害への備え、災害時の行動、避難に関する考えなどが掲載されており、外国人にも比較的使用しやすい情報源。 <p>https://www.city.yokohama.lg.jp/lang_residents/ej/mergencies/sonaeru.htm</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ●授業では、「災害時や事前の備えについて確認する際は、市や区の公式ページを見るとよい」ことを伝える。 ●一緒にアクセスしてみる。 ●学習者が理解できるか確認する。 |
|  | <p>③NHK World-JAPAN（多言語対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本の公共放送であるNHKが運営する、外国人向けの公式メディア。 ●英語を中心に多言語でニュースを発信しており、地震や台風などの災害発生時には、最新の防災情報や注意喚起を確認することができる。 ●日本の状況を日本国内から直接発信しているため信頼性が高く、海外メディアやSNSの情報と比べて誤情報が少ない点の特徴。 <p>https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ●「災害時にはNHK World-JAPANのような日本の公式メディアを確認することが大切」であることを伝える。 ●一緒にアクセスしてみる。 ●学習者が理解できる言語があるか確認する。 |
|  | <p>④Safety Tips（スマホアプリ）（多言語対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害時に役立つ情報をスマートフォンで確認できる無料アプリ。 ●地震や台風、大雨などの緊急情報や注意喚起が通知で届く。 ●多言語に対応しているため、日本語が十分に分からない外国人でも利用しやすいのが特徴。 <p>https://www.jnto.go.jp/safety-tips/eng/app.html</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ●「災害時に正しい情報をすぐ受け取れる手段の一つ」として紹介し、可能であれば事前にインストールしておくよう勧める。 ●一緒にアクセスしてみる。 ●学習者が理解できる言語があるか確認する。 |

⑤横浜市外国人災害時情報センター

- 大きな災害が発生したときに、公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）と横浜市が協力して設置する外国人住民を対象とした支援拠点。
- 主な役割
 - 多言語による情報提供・相談対応
 - 災害情報ウェブサイト等での多言語での情報発信
 - その他、情報の翻訳、通訳ボランティアの派遣等

YOKE 災害情報サイト
<https://www.yokesaigai.com>



⑥00000JAPAN (ファイブゼロジャパン)：災害時に使えるフリーWi-Fiを知る

- 大きな災害が発生したときに、通信事業者が無料で開放するフリーWi-Fi。
- 携帯電話の回線が混雑したり使えなくなった場合でも、インターネットに接続して災害情報の確認や家族・知人との連絡ができるようにすることを目的としている。被災地内にて無料で利用でき、登録やパスワードは不要。
- セキュリティは高くないため、個人情報の入力や重要な手続きには注意が必要。
- 発災後すぐに開放されるとは限らない。



NTT BP「00000JAPAN」

<https://www.ntt-bp.net/column/en/blog/2021/02/post-05.html>

【その他参考情報】

- 区役所で防災マップやハザードマップなどの地図・防災関連資料を無料でもらうことができる。
- インターネットが使えない場合を想定して、紙資料として持っておくことも備えの一つ。

セクション[11]


(1) ねらい

学校等の災害時の対応ルールについて、関心を持ってもらう。

(2) 概要

子どもが学校・幼稚園・保育園にいるときに災害が起きた場合の行動について考えてもらう。

1



2

[11] 子どもがいる人は

子どもが学校や幼稚園、保育園にいるときに、災害が起きたら、どうしますか？

先生と相談しましょう。

3

(3) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|-----------|--|
| ②子どもがいる人は | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもが学校・幼稚園・保育園にいる時間帯に災害が起きた場合、通常とは異なる対応が必要になる。 ●自己判断で動かず、学校や園からの連絡や指示を確認したり、事前の決まりに沿って対応する。 ●保護者が勤務先から帰宅できない可能性も言及したい。 ●学校で行われる引き渡し訓練には、積極的に参加してほしい。 |
| ③先生と相談 | <ul style="list-style-type: none"> ●災害が起きた場合の対応について、あらかじめ学校や園の決まりや連絡方法を確認し、気になることは具体的に、担当の先生などに相談しておくことを勧めたい。 |

(4) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|-----------|------------------------|---|
| ①タイトル | ■学習者に子どもがいるか確認してから進める。 | ■家族に子どもはいますか？ |
| ②子どもがいる人は | --- | <ul style="list-style-type: none"> ■今、地震が起きたら、子どもはどうしますか？ ■仕事に行っているときは、どうしますか？ ■迎えに行くことができますか？ ■引き渡し訓練に行ったことがありますか？ |

セクション[12]

(1) ねらい

ペットのための災害対応を考える。

(2) 概要

ペットの備えや避難方法を確認する。

The infographic features a blue background with white text and three numbered circles (1, 2, 3) containing icons of a dog, a cat, and a dog respectively. The text is as follows:

1 ペットを飼っている人は
 犬・ねこなど ペットの食べものやトイレも 多く 準備しておきます。
 2
 3
 逃げる時は、ペットを キャリーケースに入れて
 いっしょに行きます。

(3) 解説

| 掲載内容 | 解説 |
|---------|---|
| ②ペットの備え | <ul style="list-style-type: none"> ●在宅避難：ペット用の備蓄(水や食料、トイレの他、常備薬等)も準備する。 ●ペット手帳：飼い主情報や連絡先、ペットの健康状態、ワクチン接種歴、写真などを記録したペット手帳を準備する。 |
| ③一緒に避難 | <ul style="list-style-type: none"> ●避難場所：避難所によって受け入れ方が異なるため、避難所のルールや避難ルートを確認しておく。避難するときは、ペットと一緒に避難(同行避難)できるよう、日頃からキャリーケースやケージに入ることなどに慣れさせておくことも必要。 ●逸走(いっそう)対策：迷子札、マイクロチップ、(犬の場合)狂犬病予防注射済票、犬鑑札で飼い主の特定や再会につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ●マイクロチップについて 環境省「犬と猫のマイクロチップ情報登録」 https://reg.mc.env.go.jp |



(4) わかりやすく伝える対話例

| | 対話のヒント | 対話例 |
|---------|--|---|
| ①タイトル | ●学習者がペットを飼っているか確認してから進める。 | ■〇〇さん[学習者]は、家にペットがいますか？何の動物ですか？ |
| ②ペットの備え | <ul style="list-style-type: none"> ●ペットにも備えが必要なことを伝える。 ●支援者がペット飼育者の場合、自身の備えについて紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■災害のときは、ペットの食べものや道具を買うことができなくなります。だから、自分の家に多く準備しておきます。 ■私[支援者]の家には、猫がいます。トイレの砂もたくさんあります。 |
| ③一緒に避難 | ●逸走(いっそう)対策を促す。 | ■ペットが逃げないようにしてください。 |

リーフレットの解説は以上です。

参考：ハザードマップについて

ハザードマップは、自宅や学校、職場など、普段よく行く場所の災害リスクを知るための地図です。あらかじめリスクを把握しておくことで、被害を少なくすることができます。

横浜市が作成しているハザードマップは各区役所で配布されているほか、市のホームページからも確認できます。また、区によっては独自のハザードマップを用意しています。学習者と一緒に見ながら、身近な場所のリスクを確認してください。

横浜市「各区の防災に関するマップ」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/map/kakukubousaimap.html>



| ハザードマップの種類 | 内容 |
|-------------------------|--|
| 震度マップ 液状化マップ | <p>元禄型関東地震、東京湾北部地震、南海トラフ巨大地震の3つの想定地震について、わいわい防災マップ(オンライン)を使って、震度想定や液状化の危険度を確認することができる。</p> <p>横浜市行政地図情報提供システム https://www.city.yokohama.lg.jp/yokohama/Portal</p> |
| 浸水ハザードマップ (内水、洪水、高潮) | <p>災害時に想定される浸水の範囲や深さなどが示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高潮 台風や発達した低気圧が通過する際には、海の水位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」という。沿岸部では高潮による浸水の危険が高まるため、事前にハザードマップで確認しておくことが重要。 <p>横浜市「浸水ハザードマップ」 https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/map/shinsui/</p> |
| 土砂災害ハザードマップ | <ul style="list-style-type: none"> ● 集中豪雨や台風に伴う大雨などにより、土砂災害が発生した場合に被害がおよぶおそれのある区域を示したもの。 ● 土砂災害が予想されるときや実際に発生したときに、市民が避難などの適切な行動をとれるよう作成されている。 ● 地震の際にも崩れやすい場所であるため、あわせて注意が必要。 |
| 津波ハザードマップ | <ul style="list-style-type: none"> ● 慶長型地震の津波による浸水予想をもとにした避難対象区域を示したもの。 ● 地震による大きな揺れや長い揺れを感じたとき、または津波警報などを知ったときは、周囲に声をかけながら「より早く、より高い場所へ避難」する。警報が解除されるまでは、安全な場所にとどまる。 <p>横浜市「津波避難対策について」 https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/map/tsunami/tsunami.html</p> |